

芦屋釜の里の研究

古代の鑄造技術の謎に迫る

芦屋釜の里の 対外的取り組み

芦屋釜の里では、全国に残る中世の芦屋釜や釣鐘などの調査・研究をもとに、その復元を行っています。その活動の中で、多くの博物館、美術館、大学などと繋がりができ、共同で調査や鑄造実験を行う機会が増えています。

また、近年では中国や台湾など、国外での共同調査も行い、さまざまな成果が出ています。これら国内外の情報を集積することで、芦屋釜のルーツは何かなどの重要なテーマを、東アジア圏という広域的な視点で捉えることも可能になると考えています。

今回は、対外的な芦屋釜の里の取り組みを紹介します。

国際的な研究協定を締結

東アジアの鑄物のルーツといえるのが、今からおよそ3千年前、中国の殷周時代に造られた青銅器です。それらの複雑怪奇な造形、非常に細かな文様は、一体どのような技術で造られたのか、科学技

術が進んだ現代においても、多くの謎を残しています。

日本で、中国古代青銅器の世界的コレクションを所有するのは、住友家の美術品を収蔵する泉屋博古館（京都）です。平成23年ごろから、芦屋釜の里と共同で鑄造実験や国内外の鑄物の調査を行っています。

また、近年では、多くの中国古代青銅器を収蔵する台湾中央研究院歴史語言研究所（台湾）との共同研究も始まりました。

令和元年には、泉屋博古館、台湾中央研究院、芦屋釜の里の3館で協定を締結し、共同研究や鑄造実験を進めています。また、同年12月には、その研究チームが、中

中国古代青銅器に記された「金文」という文字を入れる技法を解明し、研究の大きな成果として新聞などで紹介されました。

学会の視察を受け入れ

今年7月25日、アジア鑄造技術史学会会員が芦屋釜の里の視察に



芦屋鑄物師樋口陽介氏が復元した中国古代の青銅器



1



2



3

- ① アジア鑄造技術史学会の視察で鑄込みをする樋口陽介さん
 ② 研究者が集まり共同での鑄造実験を行う様子
 ③ 中国の遺跡での共同調査の様子

芦屋釜の里を 東アジアの鑄造拠点へ

国内では、鑄造実験などに対応できるような技術者、工房は非常に少ないのが現状ですが、芦屋釜の里には、日本の伝統的鑄物の技術をもつ鑄物師いもじがおり、その技術を生かせる鑄造工房もあります。国外に目を向けてみると、東アジア圏では、伝統的な鑄物の技術自体がほとんど残っていません。東アジアの鑄造技術の解明にあたり、その拠点施設として、芦屋釜の里のもつ役割は大きくなっています。

当日は、芦屋釜復興の取り組み、釜や鐘造りなどの実験成果を動画や資料で紹介し、工房では青銅を溶解する鑄造実験を行いました。実際の鑄造現場を見る機会が少ない参加者も多く、鑄造に関するさまざまな質問や意見がありました。

国内では、鑄造実験などに対応できるような技術者、工房は非常に少ないのが現状ですが、芦屋釜の里には、日本の伝統的鑄物の技術をもつ鑄物師いもじがおり、その技術を生かせる鑄造工房もあります。国外に目を向けてみると、東アジア圏では、伝統的な鑄物の技術自体がほとんど残っていません。東アジアの鑄造技術の解明にあたり、その拠点施設として、芦屋釜の里のもつ役割は大きくなっています。

芦屋鋳物師後継候補者を募集

芦屋釜は南北朝時代頃から製作が始まり、室町時代にかけて茶の湯釜の名品として名を馳せました。その芸術性、技術力に対する評価は高く、国の重要文化財に指定されている茶の湯釜9個のうち8個を芦屋釜が占め、芦屋町の貴重な財産とも言えます。

しかし、江戸時代初期頃には、芦屋釜の製作は途絶えました。そこで、芦屋町では、平成7年、芦屋釜の復興を目的として芦屋釜の里を開園し、芦屋釜の復元や鋳物師の養成を行いました。その養成期間を経て、2人の鋳物師が誕生しています。

今回、新たに芦屋鋳物師の後継候補者を募ることにしました。そこで、修業を経て独立した2人の鋳物師、八木孝弘さんと樋口陽



重要文化財 芦屋霰地真形釜

介さんに、仕事の魅力などを話してもらいました。

● 八木孝弘さんに聞きました



■ なぜ鋳物師養成員に

応募したのですか？

平成9年の夏、偶然芦屋釜の里に立ち寄り、工房の職人さんに声をかけられたのがきっかけです。

大学で建築の空間デザインを学んでいたのですが、芦屋釜の里の立派な門構えを見て、入ってみようと思いました。当時は、芦屋釜のことも鋳物のことも全く知りませんでした。芦屋釜の里の門をくぐり、人生が大きく変わりました。

■ 仕事の魅力を教えてください

自分で考えて創意工夫し、もの

づくりができることです。成功も失敗も自身に降りかかるので、より良い方向に向くよう、日々工夫が必要です。本質的なものづくりの楽しさを知ることができると仕事だと感じています。

■ 芦屋釜や芦屋鋳物の未来とは？

日本の茶道人口は徐々に減少しており、それとともに茶道具の需要も減るでしょう。そのような状況でも残っていくのは、「本物」だけだと思えます。我々は芦屋釜の品質や美しさに強くこだわり、「本物」を追求し続けることで、未来へ技術を繋げたいと考えています。

また、現在、酒器などの芦屋鋳物の製作に取り組んでいます。町内各所でそれらが使われるようになり、鋳物が芦屋町の特徴になればと願っています。



浜松図真形釜 八木孝弘





●樋口陽介さんに聞きました
 閤なぜ鋳物師養成員に
 応募したのですか？

美術教師になるつもりで、大学・大学院で鋳物を学んでいましたが、ものづくりが好きで、それを生涯仕事にしたいと思うようになりましした。芦屋釜の里工房でアルバイトをしたことがきっかけで、鋳物師養成員に応募しました。この道に入って分かりましたが、好きなのでではだめで、やればやるほど課題が見えてくる、なかなか到達点のない仕事です。

閤仕事の魅力を教えてください

芦屋の先人たちの造った釜が、名品として各地に伝えられています。それらはこの町が生んだ歴史的な遺産です。物を作るだけならどの



霰地松図真形釜 樋口陽介

場所でもいいはずですが、先人の息吹を感じるこの町で、現代の芦屋釜を造ることに意味があると考えています。また、ものづくりをとおして、今と昔がつながる瞬間があります。そのような感覚を感じることもできるのも、この仕事の魅力の一つです。

閤芦屋釜や芦屋鋳物の未来とは？

芦屋釜を製作する鋳物師それぞれが切磋琢磨し、互いに良い物を生み出す環境を作りたいと思います。「芦屋に行けばいい鋳物が手に入る」というような状況にしていきたいです。

また、町の皆さんが、鋳物を通じてこの地域の魅力を再発見し、誇りに思ってもらえるようになればと考えています。

い も じ 芦屋鋳物師後継候補者募集

- ▷募集職種 任期付職員(芦屋鋳物師後継候補者)
- ▷採用予定人数 2人
- ▷職務内容 ●茶の湯釜をはじめとする鋳物の製作技術習得 ●芦屋釜の里業務の補助
- ▷受験資格 平成4年4月2日から平成15年4月1日までの間に生まれた人で、次のいずれかの要件を満たす人
 - 専門学校、短期大学、大学などで美術分野に関する課程を専攻した人
 - 工芸分野の技術職として実務経験のある人
- ▷給与など

【給与】芦屋町一般職の任期付職員の採用等に関する条例の規定により、給料(基本賃金)と諸手当を支給します。

 - 給料月額 大学卒18万2200円、短期大学卒16万5900円、高等学校卒15万4900円

※採用前の職歴などにより調整を行います。
 ※給料月額は、給与改定などがあつた場合には金額が変更になる場合があります。

- ※給料のほかに、期末・勤勉手当、通勤手当、住居手当、時間外勤務手当があります。
- 【勤務時間、休暇など】
 - 勤務時間 午前8時30分～午後5時15分(休憩60分)
 - 勤務形態 週5日(土日祝日勤務あり)
 - 勤務場所 芦屋釜の里(芦屋町大字山鹿)
- ※技術指導場所が町内の芦屋鋳物師工房内となる場合があります。
- 休暇 年次有給休暇、特別休暇(夏期、出産、育児、子の看護、慶弔など)、病気休暇など
- 保険など 福岡県市町村職員共済組合加入
- ▷任用期間 令和5年4月1日～7年3月31日
 - ※技術習熟度などに応じ、最長で10年3月31日まで延長
- ▷申し込み 9月21日(金)～10月21日(金)に、芦屋釜の里(☎223-5881)へ
 - ※詳しくは募集案内を見てください。
 - ※募集案内と申込用紙は芦屋釜の里にあります。また、町のホームページからダウンロードできます。